

## 第1回 天人峡美瑛線災害対策会議

## 天人峡美瑛線の復旧について

平成30年7月25日（水）

1. 天人峡美瑛線の概要	1
2. 被災状況	2
3. 河道状況	7
4. 復旧状況（応急）	8
5. 道路整備に向けた方向性、技術的課題	9

北海道 上川総合振興局 旭川建設管理部



# 1. 天人峡美瑛線の概要

- 一般道道天人峡美瑛線は、旭川市方面などから東川町の観光施設である「羽衣の滝」や「あまつ岩」、宿泊施設である「天人峡温泉」に通じる唯一の連絡路。
  - 急流河川に近接しているため、異常気象時には大きな被災（H22、H28、H30）を受け、天人峡温泉の宿泊客が孤立する事象が発生。
- ・全体延長 33.1 km（天人峡温泉～二股：7.7 km） ・現況交通量 1,318台/日（2車線）





## 2. 被災状況・・・概要

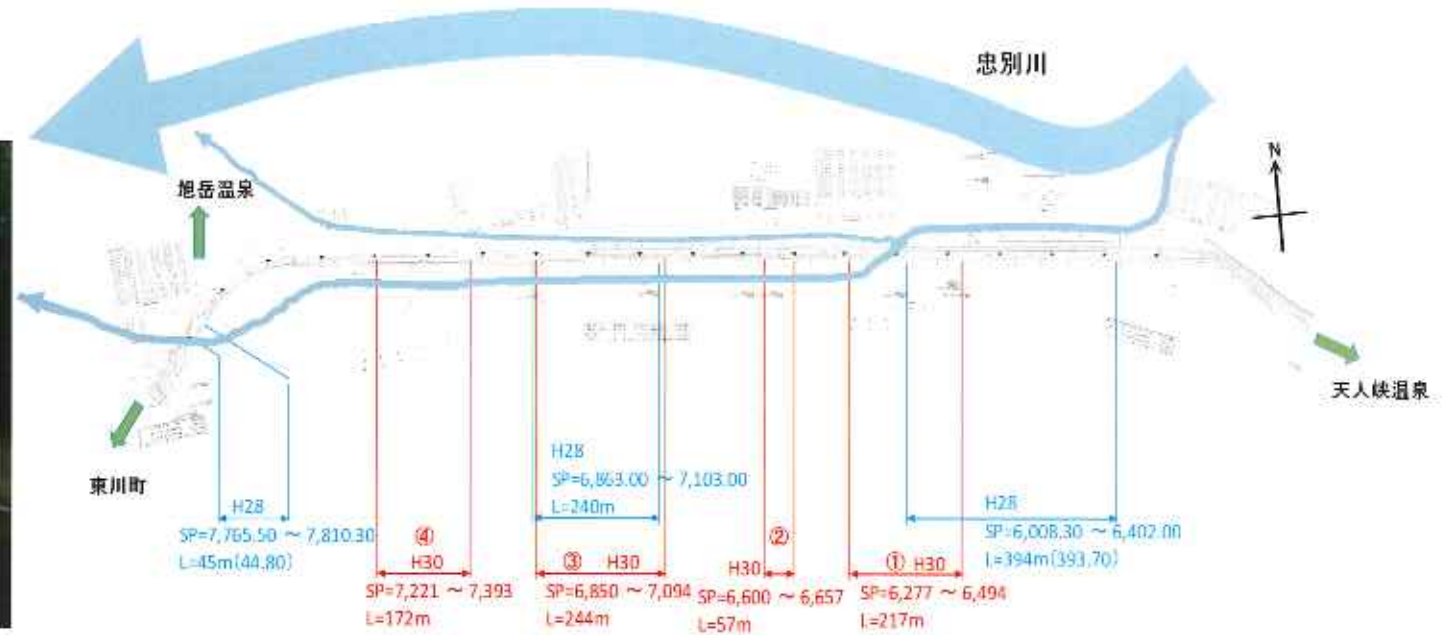




# ③ 天人峡美瑛線 SP6,850~7,094

その先の、道へ。北海道 Hokkaido Expanding Horizons.

・L側路肩流出 L=244m





平成28年被災状況と平成30年被災状況の比較



図3-1 平成28年被災概要

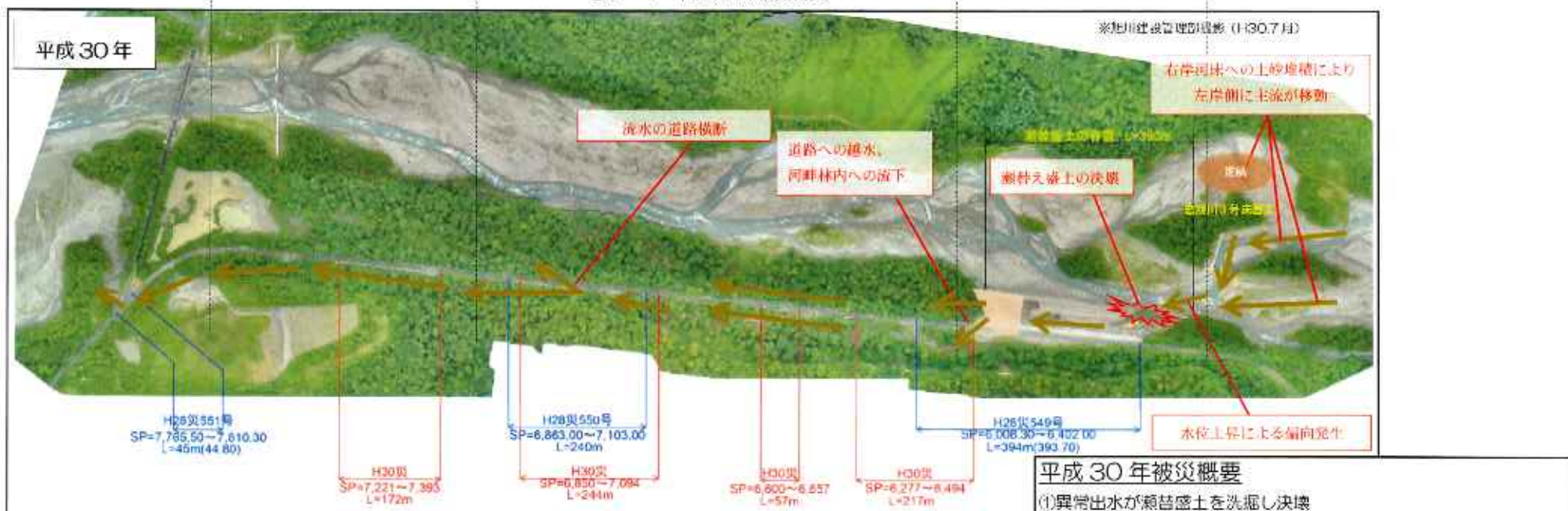


図3-2 平成30年被災概要



平成30年7月出水 被災概要



写真-1 洪水の道路横断



写真-2 道路への越水、河畔林内への流下



写真-3 瀬替え盛土の決壊



写真-4 水位上昇とともに流向が左岸側へ偏向



写真-5 ④の被災状況



写真-6 ③の被災状況



写真-7 ①の被災状況

平成30年被災概要(詳細)

- ・左岸の保護のため、平成28年災の擁壁施工時の瀬替盛土を存置していた。
- ・右岸河床への土砂堆積により、左岸側に主流が移動し瀬替盛土が水衝部となった。
- ・瀬替盛土上流部の決壊により、擁壁沿いに洪水が流下し、河畔林上流端で道路を越水した。
- ・越水した流水は流木、礫石とともに道路沿いを流下した。写真-7参照
- ・道路沿いを流下した洪水溜は、道路法面を侵食し崩壊させた。写真-5、写真-6参照

図2-1 平成30年7月出水 被災概要



## 瀬替堤設置の目的と効果



図3-1 瀬替堤設置の目的

- ①平成28年災の擁壁施工時の瀬替堤上は、
- ・擁壁沿いの高速流による洗掘防止
  - ・下流河畔林への水衝軽減等を目的
- ②平成30年7月出水では、
- ・瀬替堤上流端が水衝部となり決壊
  - ・瀬替堤内に洪水流が流入し、撞壁沿いに流下
- ③流入水は瀬替堤内で湛水、洪水流を減速させた  
(撞壁沿いの河床洗掘や擁壁の損壊はなかった)
- ④道路上に残った礫石の粒径は人頭大  
⇒ 洪水流の流速が速かったことを示している。  
(写真-1参照)
- ⑤瀬替堤がなく洪水流が直接撞壁沿いに流下したし、  
河畔林上流端が水衝部となっていた場合、  
越流水の流速はさらに速かったものと推察される。



図3-2 被災時の瀬替堤の効果



写真-1 道路越流部の状況



### 3. 河道状況





# 4. 復旧状況 (応急)

**① L側** 至旭川市  
SP6277~SP6494

平成30年7月3日撮影

平成30年7月10日撮影

L側

至旭川市

**③ L側** 至旭川市  
SP6850~SP7094

平成30年7月3日撮影

平成30年7月10日撮影

L側

至旭川市

**② L側** 至旭川市  
SP6600~SP6657

平成30年7月3日撮影

平成30年7月10日撮影

L側

至旭川市

**④ L側** 至旭川市  
SP7271~SP7303

平成30年7月3日撮影

平成30年7月10日撮影

L側

至天人峡



**【道路整備（復旧）の方向性】**

- 道路が冠水しても早期に復旧可能な道路構造を検討

**【技術的な検討課題】**

- 洪水位、流速などの検証
- 洪水規模の河道変遷



